

貴重な書籍のデジタル撮影やマイクロフィルム撮影で独自のスタイルを守り、堅実な会社経営を行っている(株)国際マイクロ写真工業社(社長・森松義喬氏・以下・KMS)では、この程、貴重な書籍において見開



森松社長

き撮影が困難であったものの撮影装置を(独)産業技術総合研究所(以下・産総研)と共同開発した。(※KMSのHPで開発ナウを公開中・<http://d.hatena.ne.jp/microfilm/20120724>)。この装置の大きな特徴は、書籍を下向きに

およそ30度に見開いてセットした状態のままアオリ(ティルト)撮影が可能というもの。従来は、撮影時には書籍を90〜180度に見開いた状態により、1

30度で撮影を可能にしたもので、貴重で、しかも、極めて重要な書籍のデジタル化に特化した撮影装置として、今後、業界関係者の話題を呼びそうだ。ま

た背表紙部分が読み取りにくかったり、画像が歪んだりしたり、原本通りに撮影が出来なかった等々の問題があった。これを少しでも可能にするには、貴重

あった。今回、KMSと産総研が開発した装置は、30度の見開きで撮影が可能であるため、これら一連の心配が激減。また、KMSと産総研

2年後のビジネス化を目指している。現在、東京大学経済学部資料室の協力を得ながら、一橋大学図書館等に所蔵されて

は、今回の新装置について、「徐々に事例を増やしながら行列ができる会社を目指しているが、現時点では、機器の調整が細かく、また、同業者卸価格を設定して協業しながら経

所属する日本複写連の会員内において、アーカイブスの30度需要を諦めている同志があれば、サンプル作りなど、同業者卸価格を設定して協業しながら経

貴重な書籍や学術文献資料等を

30度撮影装置開発

—国際マイクロ写真工業社と産総研—

台2台のカメラで撮影することが、カメラの被写界深度の問題を含め限界とされていた。KMSと産総研は、これをデジタル特殊カメラで、しかも、

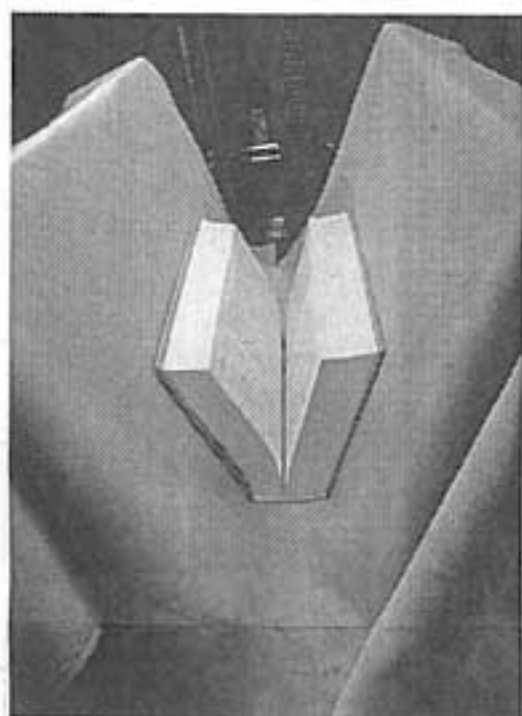
た、従来は、貴重な書籍を撮影装置によりスキャンするか、もしくは貴重な書籍を真上から撮影する方法でしかなかったが、これだと書籍の糊付けされ

な書籍の見開きを可能なだけ水平を保つように見開くことが大事であるが、これだと書籍の損壊の恐れがあり、貴重な書籍や資料をダメにしてしまう恐れが

は、一枚ごとの紙資料の湾曲をさらに厳密にセンサーで集計する手法も開発中で、KMSと産総研では特許権と実施権で合意し、開発を始めている。これは

を撮影・画像加工を行っている。(※東京大学HP・<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/digitalarchive/smith/5513435197.pdf>) KMSの森松社長

が図れず、中央官庁の特定の顧客に対しての貴重な書籍のみに対応しているのが現状であるが、アーカイブスからの要望が多くなれば、増産体制も可能である。また、KMSが受け取った。



30度撮影方法